

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471400182	事業の開始年月日	平成14年11月1日
		指定年月日	平成14年11月1日
法人名	有限会社 仙口		
事業所名	グループホーム みやまの里		
所在地	(258-0001)		
	神奈川県足柄上郡松田町寄4165		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 6 名	
		ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	平成30年2月12日	評価結果 市町村受理日	令和1年6月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かで利用者の方々ゆったりと自由に過ごせる家庭的な場所であり、自分らしく生活して頂けるよう職員や地域の方々とは自立に向けて大切な時間を心身機能の維持、回復、増進に努め町内会や地域連携、根付いた活動を大切にグループホームづくりに努めます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成31年3月15日	評価機関 評価決定日	令和1年5月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急小田原線新松田駅からバスで30分、寄(やどろぎ)行き終点で下車して徒歩5分です。近くに中津川の清流が流れている自然豊かなところで、かつてテニスの合宿で賑わっていた自然休暇村にあるグループホームです。その頃の民宿をグループホームに用途変更し、運営しています。

<優れている点>

ホームの広い庭には畑があり、利用者が朝の日課として作物を育てています。天気の良い日は、この庭でバーベキューを楽しんだりしています。24時間利用可能な温泉の入浴設備があり、日中の時間帯は利用者が入りたい時にいつでも対応できるようにしています。居室は8畳の和室に板の間があり、利用者は広いスペースをゆったり使っています。朝食時は利用者の個室に集まり、会話を楽しみながら食事をしています。暮らしの中の日課として、各自が役割を分担し、掃除、片付け、号令の声かけ、畑の草取りなどを行っています。管理者は地域の消防団長を任せ、地域と一体となって活動しています。事業所の庭や大広間が地域の避難場所になっています。1市5町のグループホーム情報交換会に参加し、研修・研鑽、地域問題などを考える機会になっています。

<工夫点>

緊急時や避難時に携帯する「緊急カード」を作成しており、日ごろから備えておくことで落ち着いた対応が可能となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みやまの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全員で理念を実践につなげそのひとりに常に自由な生活が出来るよう共有してつなげている。	清流のある緑の自然環境の中、「一人ひとりがその人らしく、充実した生活を過ごして欲しい」という心を込めた理念となっています。大自然の中で利用者自身がしたいことをし、自由に思う存分暮らしてもらえよう、寄り添った支援をしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の方々が声掛けをして下さり、自分達も地域の一員として日常的に過ごし、行事には参加する。	地元の四季の行事に積極的に参加しています。寄（やどろぎ）神社大祭典には利用者を含め、100名余の人が参加しています。ひな祭りには保育園児を招き、5月の若葉祭り、8月のバーベキューなど、地域の人と一緒に楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者や職員は地域の会合、行事、ボランティア等、認知症の方も含めて、利用者との交流、理解をお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	月4回を目標に評価への取組みを、町や、ケアマネ、社協、地域自治会の方々と利用者のサービス向上に活かしている。	年に4回実施しています。暮らしの情報その他、行事の打ち合わせや災害対応などを話題にしています。看護師の参加があった時は、薬の正しい飲み方や副作用についてなど、正しい知識をレクチャーをしてもらっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	常に連絡を取り密に話し合い、より良い関係を築く様取り組んでいる。	行政の生活保護の担当者とは密に連絡を取っています。月に1度は町の福祉担当者に来てもらい、面会してもらっています。認知症に関連した研修やリハビリ体操などの案内に、積極的に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしない。職員全員で禁止しその人らしい取り組み方理解しながら取り組んでいる。	身体拘束禁止や虐待防止など、高齢者の尊厳を守ることは、最も大事なことで認識しています。身体拘束に関するマニュアルがあり、禁止事項については廊下の、職員が目につくところに掲示しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待はない、させない。職員、利用者で常に見逃さない様注意を払い防止に努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業者と毎月話し合う機会があり、日常の生活記録を見てサインを頂き理解されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明をして理解、納得の上契約しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が訪ねられると職員、利用者も食堂でお茶や、食事時は同じものを召し上がって意見を反映させている。	家族から「歌が好きだった」ということを聞き、懐かしい歌の歌詞を大きな紙に書いて全員で声を揃えて歌い、要望をかなえています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常生活の中で常に気付いた事はその日のうちに提案を反映させ、改善している。	職員から、利用者が雑巾を縫う時の針の管理について意見があり、改善しています。掃除の好きな利用者が、いつでも掃除できるよう専用の道具を用意したらどうかという意見から実現し、利用者の意欲に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の努力や実績を把握し、条件と向上心をもって働ける様細かい注意を払っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	町や保健所、地域からの研修には受ける機会を確保し、年に何回か働きながらのトレーニングしていく様努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	五町一市で年4、5回同業者との交流する会に入って勉強会をしたり、訪問等の活動、レクリエーションに参加したりして向上への取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者さんの話を聞くことが第一で毎日の食事の後の雑談や思い出話、テレビのドラマの話、相撲やスポーツ等、皆様と安心できる場を確保し共有した生活づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の希望や利用者との関係をしっかりと聞いて3者1体で要望に応えよう心から打ち解けて、信頼関係を作る得意な所です。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の時点で利用者と信頼感を持ち支援を見極め家族の必要としている利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	みやまの里の人達は皆一つの家族です。職員も介護される方もいつも暮らしは共有し楽しい事も淋しい事も一緒に解決する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族には常に情報を伝える。訪ねて頂く様にしています。毎月の記録も見てもらおう。大切な家族の話をよくして上げる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙を出すこと。訪問して下さったら又来てもらえる様お願いをする。近所の馴染みの人とはお茶を飲んで話し合ったりして関係を大切にしている。	利用者の家族や友人にはがきを出す支援をしています。下書きを一緒に考え、清書してもらっています。手先が器用な利用者が、以前から親しんでいた立体工作を継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	兄弟の様です。一度もトラブル等ありません。本当に仲が良く支えあって生活をされています。最高です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者さんが退去された後でも家族の方が訪ねて下さり、いろいろ相談される事も有りこのままの支援を大切に努めて参ります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思い出や暮らし方は違うので、その人らしい生活をエンジョイしている。本人本位に検討する。	行動や会話の一端に利用者の、思いや意向をとらえて支援しています。日常の暮らしではその人の思いに応えられるよう意識し、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとり自由な生活をし、それに生活環境を見定めながら見守るサービスに心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい一日の生活を理解し楽しく安全な生活が出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	推進会議等に話し合う機会を持ち、利用者全員で一緒に出来る事を、毎日の暮らしのケアに反映させて計画書を作成している。	「〇〇さんの暮らしの日記」に呼応する形で、毎日の記録をつけています。その日の暮らしぶりが1ヶ月通して一覧できる様式になっており、その日の特筆する事柄をピックアップしています。	モニタリングの対応を容易にするためにも、介護計画によるサービス内容実施の際のチェック基準を予め決めておくことも期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の日誌に記録し、情報を共有しながら実践や介護に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズみ合わせ「利用者さんは家族である。」施設の考えをモットーに話しあったり柔軟な支援やサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	春は窓辺の河津桜、寄神社のお神輿がくる。100人で一緒に豚汁を食べる。夏は交流のバーベキュー、秋は紅葉狩りと豊かな暮らしをしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、第一、第三（水）訪問。おひさまクリニックに受診。適切な治療を受けています。	月2回、協力医療機関の医師が看護師を伴い往診しています。一人ひとりの健康状態をノートに記録して、往診時に医師の指示を受けています。緊急時には24時間、医師と連絡を取ることができます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	おひさまクリニック、鶴巻訪問看護等に相談。利用者が受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院はおひさまクリニックのドクターとの連携で情報交換に努めています。病院関係とも良い関係づくりが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度、終末期について家族と話し合い、文章にて届出をして頂き方針を共有し支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期については、事業所としてできることを説明したうえで、本人や家族の意思を確認しています。看取りについての外部研修を受けた管理者が、職員に研修の内容を伝え周知しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故はドクターと119番に電話をし指示を受けながら定期的に初期対応の実践をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署への届出の為職員、利用者と共に避難の訓練をし身に付ける。地元の消防団員とも協力体制を築いている。	年2回の避難訓練で、2階の非常口からの避難や、水消火器を使った訓練を行っています。災害備蓄品は倉庫に保管し、缶詰などの食料品は消費期限前に使って補充しています。事業所の大広間は地域住民の避難場所になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	十分に気を配り一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し、言葉かけに注意して支援している。	一人ひとりの個性や生活歴を尊重し、その人らしく生活ができるように配慮しています。人格の尊重やプライバシー確保については、職員に周知徹底を図り、さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	買物や外出など本人に希望を確かめながら行動している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分らしく好きな事やしたい事をして過ごす利用者が多いので見守りながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みの物を身に付けられる様話し合いながら支援する様心掛けています			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事はすべて手作りですのでリクエストを聞きながら一緒に作り一緒に食べています。テレビの料理が多い	利用者がテレビの料理番組から献立のリクエストをすることが多く、毎日希望を聞いています。利用者ができる範囲で、食材の下ごしらえや配膳などを手伝っています。ラーメンや回転寿司などの外食を楽しむ機会もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事には栄養、カロリーを取り入れながらバランスの良い食卓にするよう一人ひとりのメニューも作って出しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全員に毎回声掛け、本人の力に応じた支援の仕方で行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間を決めて、一人ひとりが違ったパターンなので合わせた声掛け、手伝い、見守りながら支援しています。	トイレでの排泄を基本に考え、必要に応じてオムツなどを使用しています。一人ひとりの排泄パターンや習慣に合わせて、さりげない支援を行っています。便の失禁があった時は、入浴して身体を清潔に保つようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ドクターの意見を聞きながら食物で出来る事は取り込み、運動への支援も少しでも本人が楽な様にしています、		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎回順番を決めて、その人らしく入浴を楽しむ。天候によっては曜日や時間帯を変えて応じた支援をしている。	週に2回入浴しています。入浴時には職員が2人付き、入浴や着替えの支援をしています。入浴中は、浴槽の湯をかけ流しにしています。一人ひとりに応じた支援を行い、ゆったりと入浴を楽しめるように配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼寝はあまりしない様に、夜は8時～9時には全員床に入り休まれる様支援、見守る。冬は全員電気毛布で暖かくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬支援は一人ひとり必ず手渡しをします。服薬の症状の変化を確認出来たらドクターに連絡をし支援をあおいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食後は必ず全員と楽しい話や、ゲーム、歌などをして過ごし嗜好品は毎日いろいろ考えてだす様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出、家族の面会の時などどこかへ連れて出てもらう。希望でドライブがてらレストランへ行ったりしている。月に1回は必ず買物に出掛けます。	天気の良い日は、自然豊かな近隣を散策しています。地域の祭りや温泉などに出かけることもあります。利用者は、月1回の買い物の日を楽しみにしており、日用品や食料品を時間をかけて選び、自分で支払いをしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物では1人1,000円づつ渡し、100円ショップで好きな物を9個選んで自分でレジで支払いをしてもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を掛ける事はないので手紙は葉書を渡し下書きをし正書きして表のあて名は職員が書いて出しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	民宿をしている空間が有るのでイベントや雛飾り、カラオケやゲームを広々とした空間で過ごしています。	広々とした居間は、絵画や工芸品などが飾ってあり、ゆったりと食事をすることができます。食後は全員で童謡を歌って楽しんでいます。廊下には、行事の時に撮った写真が掲示してあります。3月には、利用者と職員で、大広間にたくさんの雛壇や吊るし雛を飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	生活感や季節感を目や心で感じ居心地が良く楽しい仲間作りをしながら過ごす工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個室が約十帖あるので家族や友人が居心地良い居室に花を生けたり写真や馴染みの物は大切にしています。	居室は8畳の和室に板の間がついていて、ベッドと寝具、タンス、エアコンが備わっています。テーブルやテレビなどを配置し、それぞれ居心地よい居室にしています。趣味の工作を楽しんでいる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自由な生活をして頂く環境作りに心掛け安全に自立した生活を送れるよう心掛け支援している。		

平成30年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム みやまの里

作成日： 令和元年 6月18日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		家族が無い人が殆どですので、その絆を職員が 支え、人間関係を築いていく事。	家族に代わり月に一度程度外出し、買物、外食 などをして楽しんでもらえるよう努めています。	月に一度程度外出し、外食は好きな物を食べ買 物は自分で好きな物を買えるように支援してい ます。	12ヶ月
2		市町村との連携、松田町の担当の方々、グルー プホーム協議会の方々と日頃から連絡を密にとり 事業所の実績やケアサービスの取り組みを積 極的に伝え協力を仰ぐ取り組みをしています。	松田町の担当の方々とは常に相談、報告等は 行っている。グループホーム協議会などの講習 会などには、出来るだけ参加してもらおう。	松田町の担当の方々とケアサービスの組み みや、施設の空き状況など共有し協力を築いてい ます。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月